

平成30年度研修旅行

「松殿山荘・平等院・ロームシアター 京都・廣誠院～京都の建築文化を堪能」

京都の建築文化の凄さ・奥深さを感じる

信州名匠会 平成30年度研修旅行は、9月29日・30日に31名が参加して行われた。平成29年度の総会で講演していただいた、矢ヶ崎善太郎先生（京都工芸繊維大学准教授）のご案内で宇治・京都を巡り、なかなか観ることができない貴重な建物・庭園を見学した。

大型台風24号の接近が心配される中、初日は、宇治の松殿山荘を見学。大書院で、茶人である当主の平岡氏のお話を参加者全員で真剣に拝聴し、その後建物の案内をしていただいた。あいにくの小雨で、「庭園の散策が出来ないかわりに」と、普段見学出来ない「連齋」まで観させていただいた。

その後、平等院を巡り、各自鳳翔館を見学。京都市内のホテルで、矢ヶ崎先生を囲んで、懇親を深めた。

二日目は、前川國男氏の設計で1960年に完成した京都府立香山壽夫氏によって現代の文化施設としての機能向上を実現した、ロームシアター京都を見学。そして、最終見学地、廣誠院で数寄屋建築の真髄を堪能した。高瀬川の畔に建つ明治時代の屋敷で懐石料理をいただき、台風が迫る京都を後にした。普段の京都旅行では体験できない京都の建築文化の凄さ・奥深さを感じる研修旅行となった。



宇治 松殿山荘にて

高谷宗範が開いた書院式茶道の修養道場「松殿山荘」

900年前、平安時代に関白藤原基房が営んだ別業「松殿」の遺址である広大な敷地に、大正から昭和初期に造営された大規模な和風建築である。NHK朝ドラ「あさが来た」で主人公の姉の嫁ぎ先としてモデルとなった大阪の両替商、天王寺屋五兵衛の屋敷の一部を移築した、大玄関や、七帖の茶室「楽只庵」をはじめ、南北に長く書院群「大書院」「眺望閣」「中書院」、その南西部の広大な庭園内に茶室等が点在する。敷地内のアプローチ、庭園の造形から、建築の外観、内部に至るまで、宗範の茶道における基本理念である「方円思想」が貫かれ、「心は円なるを要す、行いは正なるを要す」の教えに従うもので、方と円の組み合わせた異形の造形で埋め尽くされている。

今回、特別に観せていただいた「連齋」は、○と□の文様が刻まれたタイルが敷かれた長い廊下を渡り、敷地の南端にある。今までの我々が一般的に考える茶道の空間では考えられない、黄、鼠、白、朱、青の五色に塗り分けられた折上格天井が印象的な、何故かモダンに感じる空間や、各所に見られる「匠」の技を、参加者銘々興味深く見学した。



大書院にて平岡氏の話聞く



中書院 特異な天上の造形



連齋 五色に塗り分けられた折上格天井

研修旅行スナップ

近代の数寄屋で日本屈指の名作「廣誠院」

明治20年代に伊集院兼常の別荘として造営された数寄屋建築である。台風の接近にも関わらず、建物を維持管理している当主の広瀬氏に画像・古地図面を準備いただき、敷地や建物の歴史・特徴、そしてこの貴重な建物を残していく試み等についてのお話をお聞きし、建物・庭園の隅々まで拝見させていただいた。数寄屋建築の座敷（書院）と茶室からなり、高瀬川の流れを庭園に引き込み、建築は流れに沿うように蛇行し、一部（茶室部分）は流れの上を跨（また）ぐ構成である。座敷の南から東にかけ深い庇が構成され、桁を支える支柱も極力省き、軒下は大きく吹き放たれ、庭園と一体となった見事な空間をなしている。そして、高瀬川から引き入れた流れの上のり出すようにつくられた、あたかも吊座敷のような軽快な外観に参加者一同驚嘆し、数寄屋建築（匠の知恵・技術）のすばらしさを堪能した。



平等院にて



ロームシアター京都にて



廣誠院 一本の捨て柱が、深い庇を支える



廣誠院 流れの上にせり出す軽快な意匠の茶室



廣誠院 廣瀬氏を囲んで説明を聞く参加者

研修旅行日程

9月29日(土) 多賀SA(昼食)＝宇治 松殿山荘＝平等院・鳳翔館＝京都市内泊

9月30日(日) ロームシアター京都＝廣誠院＝がんど高瀬川二条苑(昼食)

平成30年度研修旅行「松殿山荘・平等院・ロームシアター京都・廣誠院～京都の建築文化を堪能」

参加者名簿 (31名。氏名・所属。順不同、敬称略)

坂田守夫・坂田工業(株)、久保敏幸・(株)さつき苑、林正道・(株)林工務店、堀内太一・(有)泉秀園、鎌倉良収・(株)鎌倉木材、北澤徹・(有)北澤ステンレス工業、増田幸雄・匠建設(株)、祢津吉道・(株)ミツルヤ製作所、五味沢拓朗・(株)角藤、米田満・(株)山二、落合一視・落合コンサルタント、宮内計臣・(株)宮内、中沢清光・(有)エヌ・テック、堀誠・夫人・建築工房アカシア、山本耕平・夫人・長野サウナ販売(株)、小坂浩一・小坂建設(株)、犬飼栄治・(株)シナノ大理石、黒澤忠・クロサワメタル(株)、前島浅男・大工、宮澤郁夫・宮澤建築、山田真一・川上恵一・(有)かわかみ建築設計室、内山保・(有)朝陽工芸、白石大陸・サンコー特機(株)、荒井孝明・(株)本久、太田悠香・本荘奎菜・宮本夏樹・西澤広智・(株)宮本忠長建築設計事務所

会員に聞く
「たくみの仕事」 Vol.29

命を守り、 技術をつなぐ

サンコー特機株式会社 代表取締役 宮下 知子 (みやした・あきこ) 氏 (長野市南長池)

profile ● 長野市出身



先代の恒夫さんの遺影を横に語る宮下知子さん

自分たちの仕事を「命を守るもの」と言い切る。「だから、当社は24時間・365日対応。必要に迫られれば夜中でもお客さまのところに駆け付けます。社員のみなさんに苦勞をかけていますが、やってもらっている」。

サンコー特機の事業の柱は、消防施設工事業と電気通信工事業、それにとまなう電気工事業の3つだ。保守点検と工事を行っている。いままでに長野冬季オリンピック施設のホワイトリングや今井団地、善光寺の経堂や別所温泉の五重塔などを手掛けてきた。最近では、新しくなった長野駅・駅内のMIDORI・ホテルメトロポリタンなどを総合的に見守っている。

創業者は実父で先代の恒夫さん。5人でスタートした。「このうち、一人は今も生き字引。もう一人は技術を支え

てくれていて、工事をやり、保守点検をやってくれている」という。

知子さん自身は短大卒業後、銀行に勤めたあとに誘われ、「腰掛けのつもりで入った」という。はじめは保守点検の事務をやり、その後は経理。夢中で働いていたときに、先代が亡くなった。当時、社員は23人ほど。社員のためにどうしたらいいかを考え「仕事を続けたいと思えなかった」という。引き継ぎはゼロだったが、社長を継ぐことを決めた。そうして今を迎えている。昨年、先代の7回忌を行った。

会社の宝は「技術」。創業からの熟練者を筆頭に、若い世代に技術を継続していくのが使命だ。過去には社員教育として横浜のランドマークタワーの工事に泊まり込みで手伝いに出たこともある。「なにより、工事をやるのが大切。それによって、技術力が向上し、対応力が上がる。工事をしなければ技術を維持できない。お客様のためでもあり、巡り巡って自分たちのためにもなる。その循環が我が社の基礎です」。今、20代の若手がいるが「さらに若い世代を入れていきたい。若手を入れることで、今の若手が先輩になり、気概と技が巡っていく」。

名匠会を担当する白石大陸さんは昭和51年生まれ。先代の時代から受け継ぐ技術をつなぎながら、新しい技術にも対応している存在だ。「どんどん変わる消防法や設備に対し、最前線に立って対応してくれている。名匠会を通して異業種の方たちと付き合い、新しい視点を当社に入れてくれている」と知子さんはいう。

白石さんは旅行に行くと、行った先の建物で天井を見る。「消火設備の種類や施工の工夫が目がいってしまう」。命を守るものでありながら、景観にも気を配らなければならない。そこに高い技術が隠れている。文化財であれば、伝統の建物に寄りそうように、空気管などは一本一本手打ちだ。それは観光地でも変わらない。「ディズニーランドに行っても、まずは天井を見てしまうんです。職業病ですね」

知子さんは先代と生前、何となく交わした会話を憶えている。「なんで社名がサンコーなのかと聞いたんです。消防や防災といった言葉が入っていないせいで、あやまれることがあるので。そうしたら『そうはいかねえ』って、いつもの口癖で言われて。いろいろと変わっていけるようにと考えていたのでしょう。でも、地道に誠実に、技術を磨いて3本の仕事をやってきた」

先代からの技術を地道に誠実に、若い世代へと繋げ、命を守っていくサンコー特機。名匠会については「さまざまな技術を持った会社や人から、事例を学ばせていただく良い機会をいただいている」と話す。「研修会で、完成前の現場を見ることもある。自分たちが持つ消防のための技術や考え方とは別の、建築家の設計意図など異業種の方の考えを聞き、知ることができると『なるほど』と思う瞬間が多い。本当に勉強になる」

会員に聞く
「たくみの仕事」 Vol.30

人のつくりえないものをつくる。
「苦勞に思ったことはない」

クロサワメタル株式会社 代表取締役会長 黒澤 忠（くろさわ・ただし）氏（上田市富士山）

profile●1940年（昭和15年）生まれ、79歳、丸子実業高校農業課程卒



本社にて

「仕事を苦勞に思ったことはない。大変なことも、楽しい思い出でしかない」——。独立し、クロサワメタルを立ち上げたときの思い出をそう振り返る。「今もずっと楽しい」と笑顔だ。

チタンやステンレス、アルミなどの金属を使い、パネルやカーテンウォール、オーダーサッシやモニュメントの製作や、非鉄金属の加工施工などが自社の業務。長野市の博物館などのほか、隈研吾氏から依頼された軽井沢の建築に窓枠や階段などを入れるなど、建築家との仕事にもかかわる。

自らの仕事について「既製品にあるようなものはつくりたくない」といい、「人のやらないことを主にやっている」という。「チャレンジしてつくることが楽しい」。一点物をつくり上げる技術とセンスへの思いがそこにはある。経営理念もまた、そうした技術への誇りをのぞかせる「夢実現技術集団」だ。

隈研吾氏との仕事では、「完成後、建築雑誌 GA ハウスに、社名、自身と現社長の長男の名前を記載していただけた。普通はないこと」だと言う。最初の仕事では見積もり200万円のはずが、要求がエスカレートし、ど

ンドン金額も上がった。「それだけ、本人がやりたいことを形にできる人がいなかったんだろう」。以降はその技術が認められるようになり、掲載記事を示すと、「ならば大丈夫」と技術面ではフリーパス状態になったという。

だが、そうなるまでは波乱万丈だった。丸子実業高校（現・丸子修学館）を卒業後、一度は地元の電気関係の会社に就職するも上京。いろいろなところを転々とし、塗装、機械加工などに携わった。新製品を開発する課でさまざまな提案もした。溶接を学び、ステンレスにも触れた。自動車会社にも勤めた。電子研究所で実験装置などにも関わった。そうした経験から多くの知識と技術を吸収したという。父親に呼ばれて帰郷した後はアルミサッシの販売や製作、取り付けの仕事をした。その後、雇われ社長をし、責任を負わされて強制退社させられることに。そうして独立し、今のクロサワメタルを設立した。

強制退社という形ではあったが、退職時の事情を知る人は多く、独立後の援助も多かったという。それゆえスタート当初から仕事は事欠かなかった。仲間として働いてくれる人もいた。「ラッキーだった」といい、経歴のいずれも「無駄になっていない」と話す。「苦しいなんて思ったことはない」と笑いながら振り返る。

10年前に長男の一彦氏が社長を継いだ。東京でフジテレビに勤めていたが、20年前にクロサワメタルに入社した。まったく異業種からの転身。仕事の受け方も忠氏の「浪花節」から、良い意味での「クール」に移行しているところだという。

自らの仕事について「自分たちの仕事は、お互いに面白がって工夫して、寄ってたかってつくる。そうすると良いものができる」と話す。「名匠会は、自分たちと違う個性、視点の違う人たちが集まる。有り難い」



長男で社長の一彦氏（左）と忠さん

定例研修会●Report

(平成30年12月～平成31年4月)

平成30年度 第4回研修会 【「松田家住宅齋館」見学】

開催日：平成30年12月22日(土)

講師：(株)N設計事務所 所長 西澤 嘉雄氏

参加者：29名

神主屋敷であったことを象徴する建物

松田家は、千曲市八幡に鎮座する武水別神社の神主として四百年の歴史を有しており、県宝に指定されている。2005年度より保存整備事業が行われ、松田家全体を博物館として整備し、同家が伝えてきた戦国時代から近代にいたる膨大な文書をはじめとする歴史史料を展示・公開する予定だった。

一昨年、火災により主屋、齋館、新座敷、料理の間など7棟が全焼し、神事で用いられていた衣装や提灯、家具などの民俗資料についても多くが焼失してしまった。書籍や古文書についても、一部焼けたり、水に濡れるなどの被害を受けたものの、貴重な書類は収蔵庫に保管されており、被害を免れた。現在、焼損した建物の復元に向けて、調査、修理が進められている。

内部見学をした齋館は、松田家が神主屋敷であったことを象徴する建物で、大頭祭の出立式が行われるなど、祭事にも



復元された松田家「齋館」

欠くことができない建物であるため、先行して修理が行われた。焼損した齋館の部材ひとつひとつを調べて、使える部材はできるだけ使用しているとのことだった。

主屋をはじめとする火災被害に見舞われた建物は、調査のため鎮火したままの状態に残っており、参加者は被害の甚大さを窺い知ることとなった。



復元された玄関について説明する、西澤嘉雄氏

平成30年度【新年会】

平成30年1月24日(木)

会場：長野ホテル犀北館

参加者：35名

宮本忠長先生の遺志を受け継ぎ、新たに進む

1月24日、長野市内で新年会を開いた。会員ら35人が参加し、2019年の活動開始を祝った。

あいさつで土本会長は「平成は災害が多かったという印象がある。そうした中で建築に対する考え方は変わり、減災や都市計画、コミュニティなどを重視するようになった。「祭りをしっかり行っている地域は災害に強い」など、昭和では考えられなかった概念ができた」と平成を振り返りつつ「昭和から建築を受け継いで平成に至り、活躍された宮本忠長先生のご遺志を受け継ぎつつ、新たに先生の教えを守りながら、名匠会として進んでいきたい」と話した。

また昨年国際デザインコンペ「A' Design Award」で銀賞を受賞した降旗廣信氏が登壇し、「名匠会は自分が80歳を超えてもがんばろうと思った原点」と話したほか、昨年「信州の名工」となった小谷屋根の松澤敬夫が受賞の喜びを語った。



あいさつする土本会長

平成30年度 第5回研修会 【「塩尻市北部拠点センター」見学】

開催日：平成31年2月23日(土)

講師：宮本忠長建築設計事務所

設計監理主管 嶋本 耕三氏

松本土建(株) 伊藤 寿氏

参加者：38名

大規模木造の交流拠点施設を見学

第5回研修会では、塩尻市の北部交流センター建設工事の現場見学会を実施した。38人が参加し、講師を務めた嶋本氏と伊藤氏の案内で、施設内を見て回った。

嶋本氏は、施設の設計コンセプトや概要、機能について、模型を用いながら説明。施設の中央にプレイルームを配置して



嶋本氏による模型を使った説明を聞く

いる理由に「子どもを中心に人と人がつながる施設を目指している」と話した。図書館棟と子育て支援センター・支所棟をつなぐ通路を軒下空間とすることで「広丘駅から短歌館への新しい『みち』としての回遊拠点の役割を果たす」と解説した。

同センター(木造2F、延べ約2000㎡)は、図書館、支所、子育て支援センター等の機能を備えた大規模地域交流拠点施設として注目を集めている。新しい技術である「CLT板」を採用しているほか、県産材や市産材も多く利用している。2019年7月から開館予定。



建設中の塩尻市北部拠点センター外観

平成30年度 第6回研修会 信州名匠会リレートークVOL.21 【空調設備の歩み ～快適環境と省エネ】

開催日：平成31年3月20日(水)

会場：宮本忠長建築設計事務所

プレゼンター：(株)マナテック 本澤 篤氏

：日立アプライアンス(株) 寺田 明香氏

参加者：18名

エアコンの歴史をひも解く

時代とともに普及、省エネ、節電へ

寺田氏は、日立の製品を主にエアコンの歴史を紹介。「日立が1952年、日本初となるウィンドウ型エアコンを発売した際には、大卒の初任給が8千円の時代に24万円だった」「1965年にJIS規格の冷房エアコンが発売されたのをきっかけに一般家庭への普及が広まった」「1975年になると、性能の中に『省エネ』というキーワードが入った」「2011年の東日本大震災から『節電』が注目されはじめた」など、時代背景を織り交ぜつつ話した。



寺田氏のプレゼンを聞く

住宅建築との関連では「畳何枚分」と冷房スペックを記載しているが、それは一般的な木造の場合であり、高気密高断熱などの居住性の高い家ではオーバースペックになる」としたほか、「デザイン重視のために室外機を壁などで囲う事例があるが、そうす

ると空気が回らずにエアコンの効率が下がり、カビも発生しやすくなる」「エアコンの設置位置によっては人感センサーなどが作動できなくなり、節電機能などが使えなくなる。住宅にあった機種を選んで」など、意匠とエアコンとの兼ね合いについて注意点を話した。

と空気が回らずにエアコンの効率が下がり、カビも発生しやすくなる」「エアコンの設置位置によっては人感センサーなどが作動できなくなり、節電機能などが使えなくなる。住宅にあった機種を選んで」など、意匠とエアコンとの兼ね合いについて注意点を話した。

平成30年度 第7回研修会 【松代のお花見・見学・陶芸教室】

開催日：平成31年4月6日(土)

講師：(株)N建築設計事務所 所長 西澤 嘉雄氏

参加者：17名

曳き家工事は会員の金田勝良氏が担当

毎年恒例となっている松代での見学会・花見・陶芸教室を行った。真田邸(新御殿)は、江戸末期の元治元年(1864)に、松代藩9代藩主・真田幸教により、その義母・貞松院の住居として建てられた。その後、幸教自身の隠居所、さらに明治以降は真田家の私邸になり、昭和41年(1966)には、真田家から当時の松代町へと譲渡され現在に至る。平成16年度(2004年度)から約10年を費やし、本格的な保存整備事業が行われた。



復元された真田邸

今回の見学会では、この工事の曳き家工を行った金田工業所の金田勝良氏から、文化財工事ならではの苦労話等、貴重な話をお聞きすることが出来た。

その後、桜はまだつぼみだったが、雲ひとつない好天の中、花見弁当をいただきながら和やかなひと時を過ごした。

午後は、松代焼の松代陶苑に移動し、各々1kgの粘土をもとに約2時間、土と格闘。茶碗、湯のみ、お皿等、個性豊かな作品作りに集中した。松代焼の独特の風合いに焼きあがった作品が展示される総会が楽しみである。



復元工事の曳き家について説明する金田勝良氏(右)



陶芸に真剣に取り組む